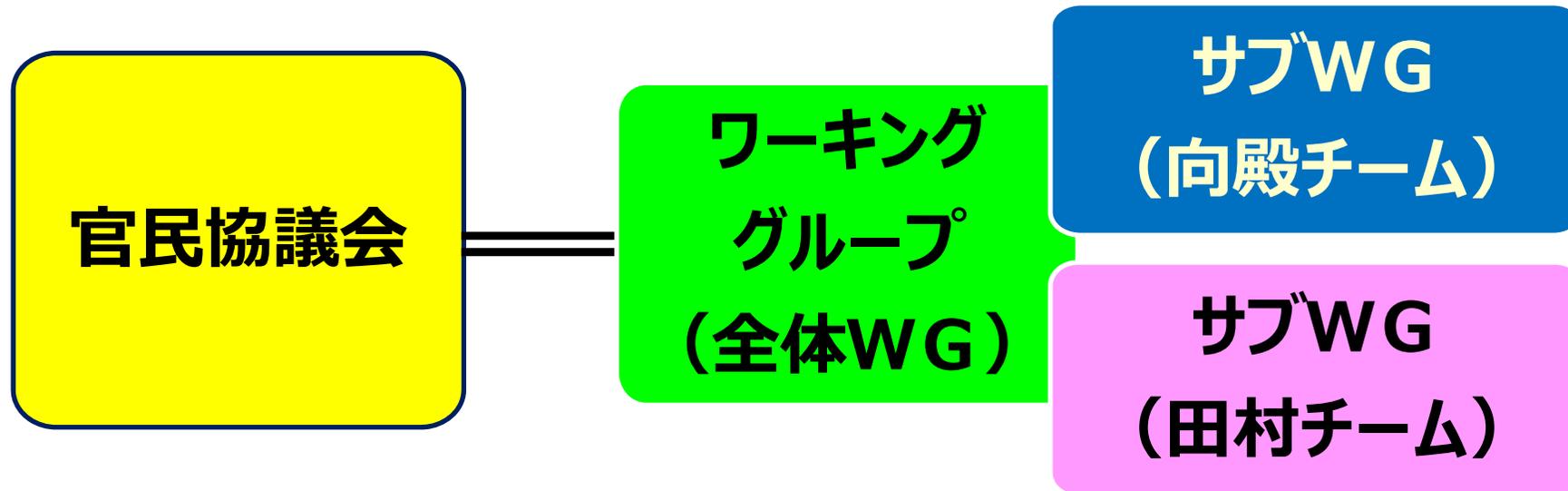


サブワーキンググループ 向殿チーム



向殿チーム

- 安全管理体制強化のため、労働安全衛生マネジメントシステム (MS) のJIS策定への協議会の関与要請
- 安全投資促進のため、リスクアセスメント (RA) の標準手法の開発及び設備点検・補修・更新基準の共通化

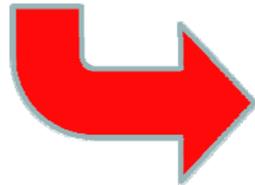
田村チーム

- 安全対策の経済・社会的効果分析
- 産業界における安全教育の体系的プログラムの策定

向殿SWG 検討状況

第1回検討会 (平成29年6月19日開催)

MSの有効な普及、RA実施手法の共通化を検討するに当たって、実態把握の必要性や内容の検討、その他

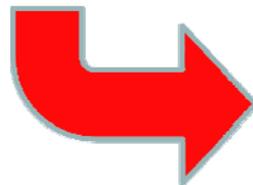


アンケート調査の実施

: 6月23日~7月21日

第2回検討会 (平成29年8月8日開催)

JIS規格策定に当たっての提言の検討、その他



JIS委員会への提言

: 8月23日

第3回検討会 (平成29年9月11日開催)

アンケート調査の分析結果を踏まえた検討、その他

向殿SWG 検討状況

アンケート調査結果の分析

- 対象： SWGメンバー（9団体）の会員企業であつて、製造業の規模50人以上の事業場。

回答数 MSに関する調査 532事業場
RAに関する調査 566事業場

- 分析： 規模100人～999人の事業場を分析
(一部の調査項目については全事業場分を分析)

MS 339事業場
RA 383事業場

- 方法： 災害発生率順に単純に三等分し、**災害発生率「高」、「中」、「低」の三グループ°（三群）**を形成。
グループ°(群)ごとに実施事項を集計・比較。

分析結果のポイント

RAに関する分析結果

災害発生率の低い事業場（群）は、災害発生率の高い事業場（群）と比較して、設問44項目中33項目において、実施内容に相関がみられた。

MSに関する分析結果

MSの導入状況と災害発生率、MSの運用状況と安全衛生活動の効果に相関がみられた。



いずれも、更なる分析と考察が必要

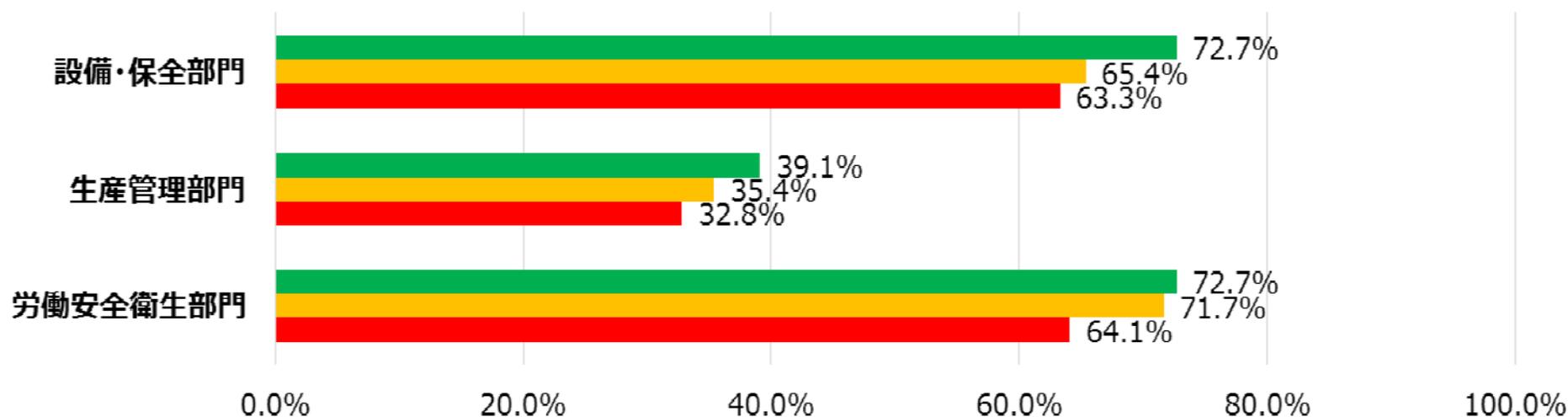
向殿SWG 検討状況

分析結果の例 RA①

災害発生率の低い事業場（群）ほど、危険源の同定、リスクの見積り、リスク低減措置の検討に当たって、「**設備・保全部門**」、「**生産管理部門**」、「**労働安全衛生部門**」が参画している割合が高い。

危険源の同定・特定、リスクの見積り、リスク低減措置の検討に当たって、
どのような者が参画していますか。

■ 災害発生率 = 低 ■ 災害発生率 = 中 ■ 災害発生率 = 高



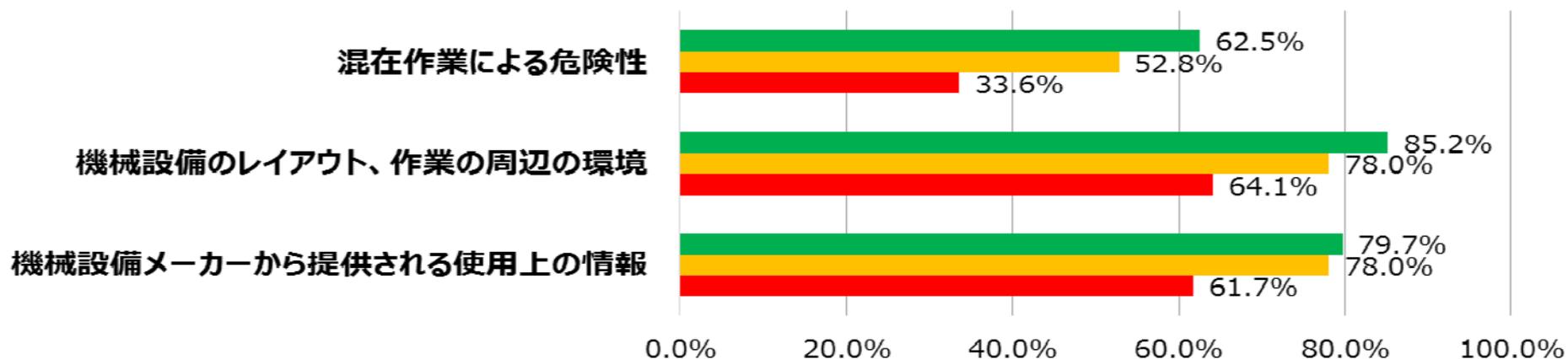
向殿SWG 検討状況

分析結果の例 RA②

災害発生率の低い事業場（群）ほど、RAの実施に際し、
「**混在作業における危険性、**
複数の事業者による同時作業の実施状況」、
「**機械設備のレイアウトや作業周辺の環境**」、
「**機械設備メーカーから提供される使用上の情報**」
などの情報を活用している割合が高い。

リスクアセスメントを実施する際に活用している情報は？

■ 災害発生率 = 低 ■ 災害発生率 = 中 ■ 災害発生率 = 高



向殿SWG 検討状況

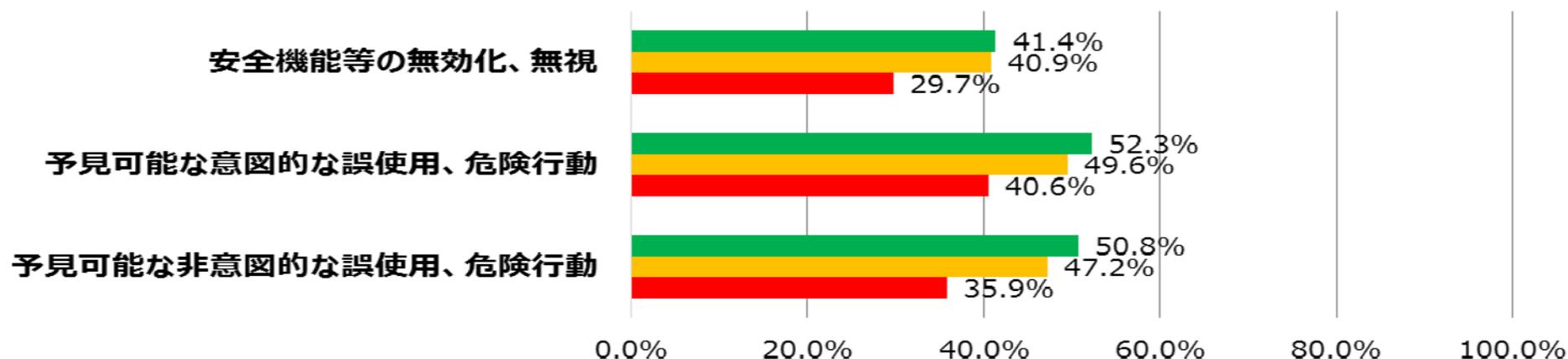
分析結果の例 RA③

災害発生率の低い事業場（群）ほど、リスクの見積りに当たって、

**「安全機能等を無効化する又は無視する可能性」、
「予見可能な意図的な誤使用又は危険行動の可能性」、
「予見可能な非意図的な誤使用又は危険行動の可能性」**
を考慮している割合が高い。

リスクの見積りに当たって、留意していることはありますか。

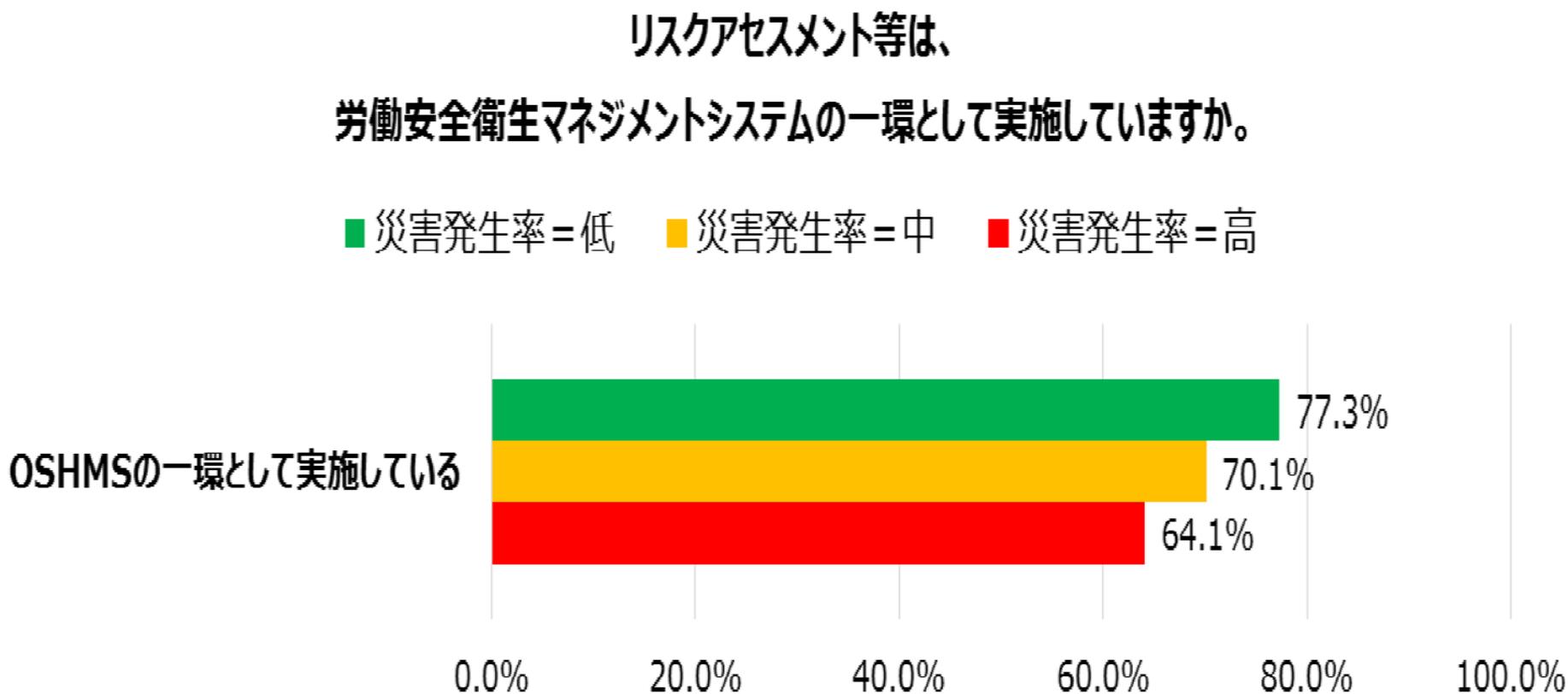
■ 災害発生率 = 低 ■ 災害発生率 = 中 ■ 災害発生率 = 高



向殿SWG 検討状況

分析結果の例 RA④

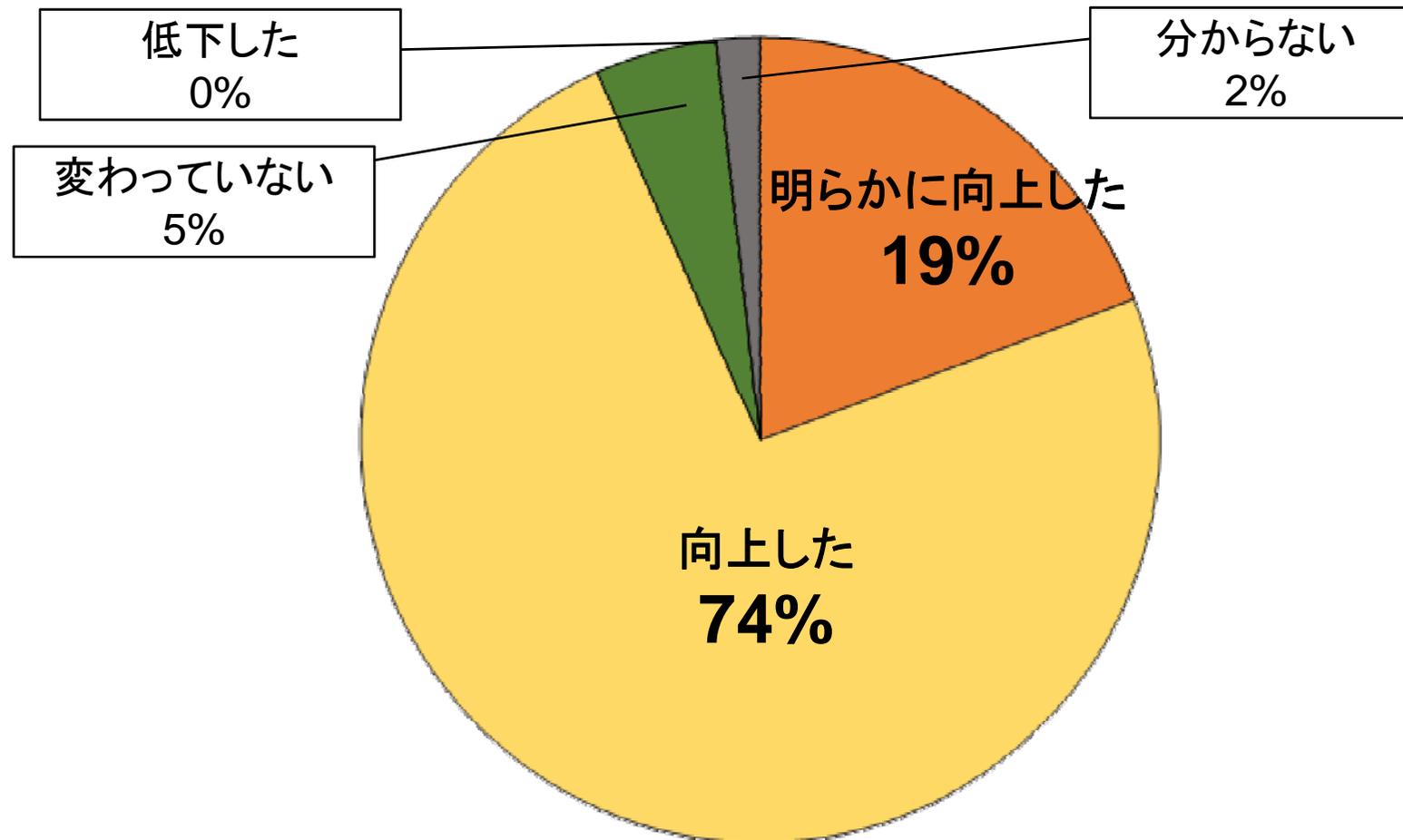
災害発生率の低い事業場（群）ほど、RA
「労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施」
している割合が高い。



向殿SWG 検討状況

分析結果の例 MS①

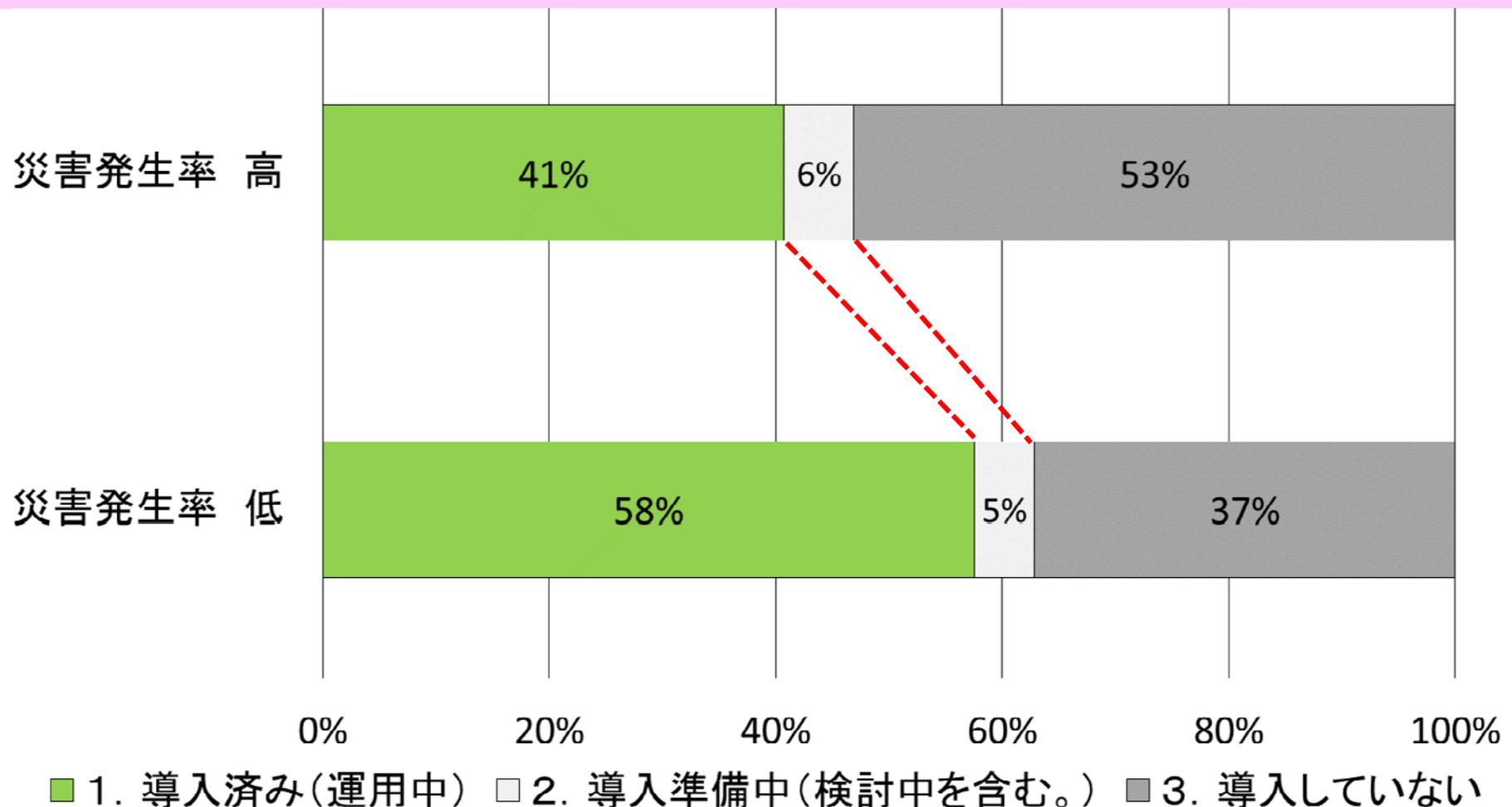
MSの導入（運用）により事業場の安全衛生水準が、「明らかに向上した」、「向上した」の割合が9割を超える。



向殿SWG 検討状況

分析結果の例 MS②

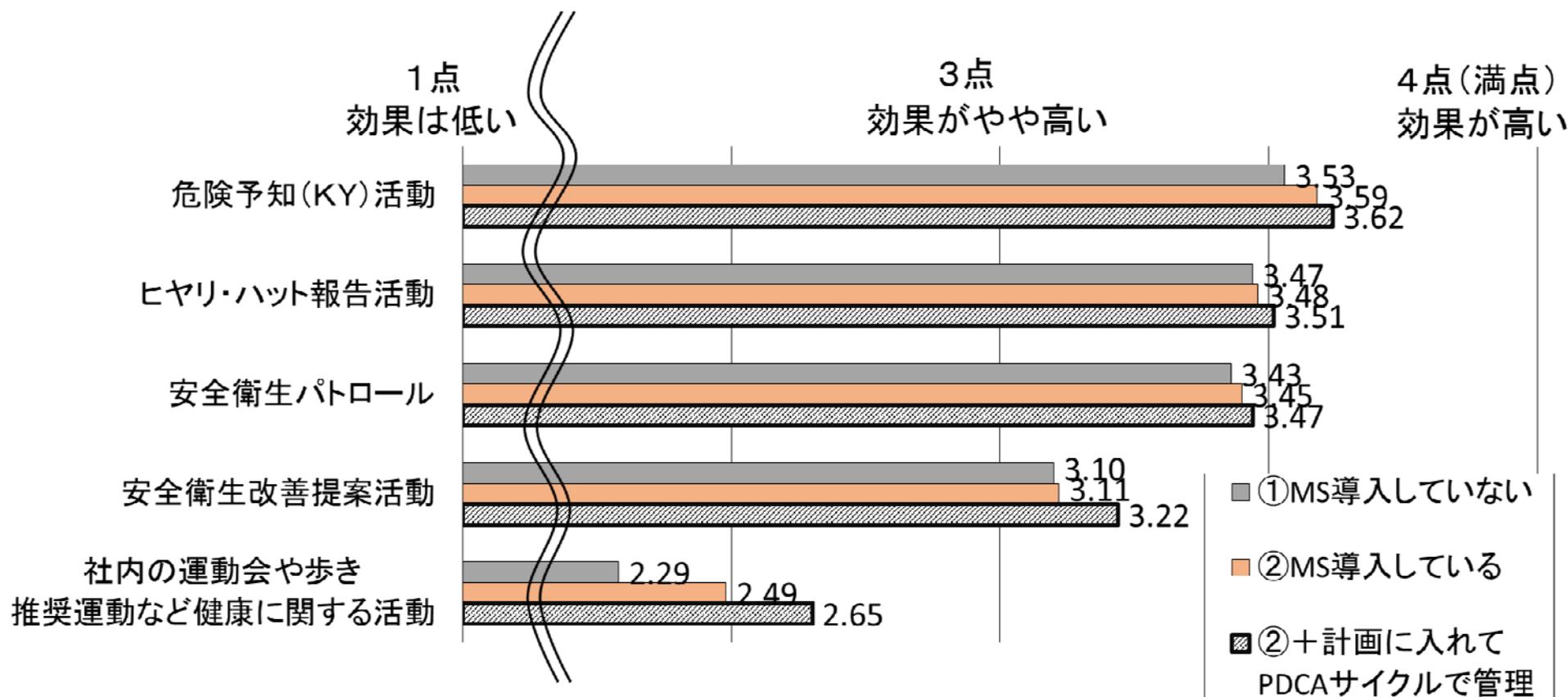
災害発生率の低い事業場(群)は高い事業場(群)に比べ、MSを「導入している」割合が高い傾向。



向殿SWG 検討状況

分析結果の例 MS③

「KY活動」、「ヒヤリハット報告活動」、「安全衛生パトロール」、「安全衛生改善提案活動」等を、**MSと一体で運用しているほど**、その活動が効果的であると感している割合が高い。



向殿SWG 検討状況

分析結果の例 MS④

MSを導入していない事業場が、その導入を検討する場合の材料として、「**労働災害が大幅に少なくなる**」が最も多く、次いで「**取引先からの要請**」が多い。

労働災害が大幅に少なくなる	63%
取引先からの要請	40%
労働保険料の割引等の費用面でのメリット	30%
社会的な信用度がアップする	29%
親会社からの導入指示	26%
OSHMS導入に要する費用の助成措置など	23%
行政機関からのインセンティブ	18%
入札参加等の条件となる	6%

設備の経年劣化・・・二つの調査 ①

老朽化した生産設備における安全対策の調査分析

(29年度) (受託者：株式会社三菱ケミカルリサーチ)

・・・経年劣化した生産設備に起因する労働災害等の
実態調査や分析、それに基づく対策の検討

対象業種：非鉄金属、石油精製、化学工業、製紙、
セメント等。鉄鋼はオブザーバー参加。

- ①劣化調査：設置から30年以上経過した設備に附属する
作業床、通路、昇降設備等の劣化状況の調査
- ②労災調査：設備の老朽化に関連する労働災害の発生状況
の調査

調査結果の報告

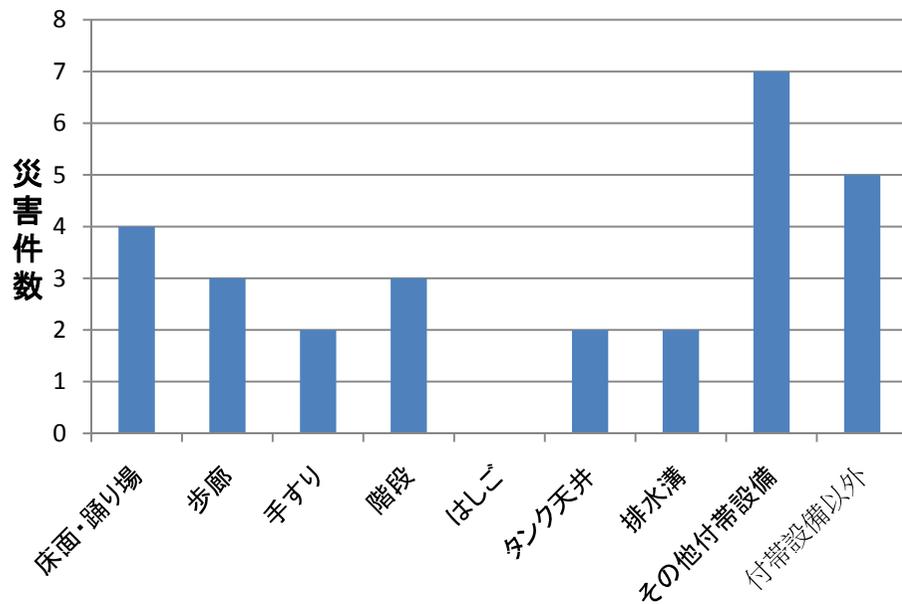
労災調査については、全国産業安全衛生大会に概要を報告
劣化調査及び労災調査の詳細については、来年3月にとりま
とめ。

向殿SWG 検討状況

労災調査の状況（中間報告）

- (1) 過去10年間の労働災害の原因となった劣化した付帯設備と経年状況を調査
- (2) 385事業所の回答から10年間に28件の労働災害が発生（10月6日現在）

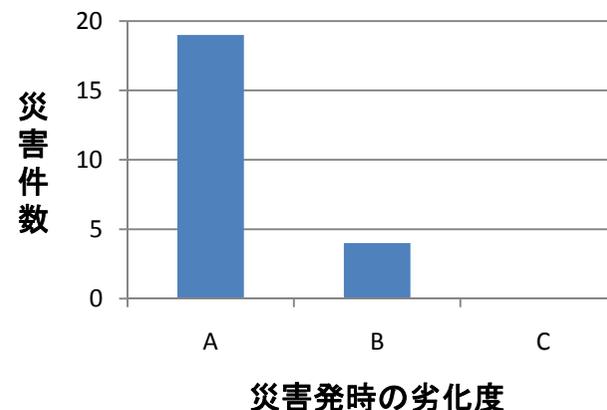
付帯設備別の災害件数



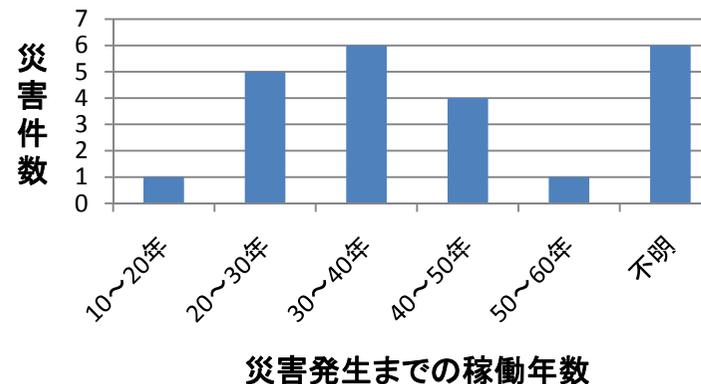
付帯設備の種類

注：グラフの災害件数は、
設備別 28件（事業場から返信のあったそのままの件数）
劣化度別 23件（付帯設備以外の5件を除く）
稼働年数別 23件（同上）
としている。

劣化度別の災害件数



稼働年数別の災害件数



設備の経年劣化・・・二つの調査 ②

施設の経年劣化の進展の予測手法に関する研究

(厚生労働省科学研究費補助金 平成29年度～31年度)

(研究者：東京電機大学工学部 辻祐一教授)

- ・・・設備劣化（腐食、クリープ、亀裂等）の進展の実態調査、それを踏まえたモデル解析、設備の余寿命の予測手法の開発。

結果の公表：各年度毎に報告書を取りまとめ。

向殿SWG JIS規格策定に当たっての提言



8月23日のJIS委員会で提言

既存の安全衛生活動の労働安全衛生マネジメントシステムでの明確化

国内各現場で広く定着している日常的な安全衛生活動が、MSの実施事項として含まれていることを、規格の中で明確にする。

日本社会として取り組むべき健康面の課題への対応

MSの中で、健康管理や健康づくり等にかかる実施事項が含まれていることを、規格の中で明確にする。

向殿SWG 今後の検討の進め方

- MS、RAに関するアンケート調査結果の更なる分析、
考察（**災害防止に効果のある実施事項のとりまとめ**等）
- 老朽化した生産設備の安全対策に関する調査研究結果
のレビュー

案

- **次年度秋の全国産業安全衛生大会を目途に、
推進すべき具体的な取組を、意見集約する。**
- **リスクアセスメントの標準手法の開発や、設備点検・
補修・更新基準の共通化に関して、意見集約する。**

例えば・・・マニュアル、事例集、重点取組活動 etc・・・